

# フィリップ・ワロン先生、クロード・メスマン先生 講演会

## ●主催 科学研究費補助金

『行動計測機「デジタルペン」を用いた幼児の描画プロセスの研究』（研究代表者：矢藤 優子）

共催 立命館大学大学院応用人間科学研究科、立命館大学人間科学研究所

●日時 2009年10月28日（水）16:00～19:30

●場所 立命館大学衣笠キャンパス 創思館1階 カンファレンスルーム

●事前申込不要、入場無料

## ●講演タイトル

フィリップ・ワロン先生

『Psychological Development Disorders and Computer Aided Psychological Diagnosis』

邦題「発達障害（自閉症、LD、ADHD等）とコンピュータ利用によるその診断」

クロード・メスマン先生

『On Behalf of the Woman...』

邦題「女性の名において—フランスにおける女性の諸問題—」

## ●講演者紹介

### ◇フィリップ・ワロン (Philippe WALLON) 氏◇

1948年のお生まれで、現在、フランス国立健康医学研究所 (I. N. S. E. R. M.) にお勤めです。精神科医として診療活動に携わる一方、フランスでの「子どもの絵」研究の第一人者としてご活躍で、既に20冊近い著書を刊行されています。日本では、『子どもの絵の心理学』（名古屋大学出版会）、『子どもの絵の心理学入門』（クセジュ文庫、白水社）の2冊が翻訳されています。最近では、コンピュータを用いた描画過程の数量的分析に関心をお持ちで、そのソフトの開発にも力を入れておられます。なお、発達心理学の大理論家アンリ・ワロンは、フィリップ先生の大伯父にあたります。今回の講演では、発達障害児の診断に描画過程分析の手法を応用した新しい研究をご紹介します。

### ◇クロード・メスマン (Claude MESMIN) 氏◇

パリ第8大学で長らく教鞭をとられ、2004年に定年で退職されました。しかし、その後も同大学の「移民家族臨床支援センター (Centre universitaire d'aide psychologique aux familles migrantes)」で臨床活動を続けておられます。先生はアフリカのリセでの教員経験を生かし、臨床心理学、学校心理学の立場からフランスにおけるアフリカ系移民家族の心のケアにかかわる仕事を続けてこられました。ご著書に『Les enfants de migrants a l'école (学校での移民の子どもたち)』(Editions La pensée sauvage)、『Psychothérapie des enfants de migrants (移民の子どもたちの心理療法)』(同)があります。残念ながら、まだ日本語訳はありません。

\* 講演は英語・フランス語で行われますが、日本語訳の資料および日本語による概要の説明がつきます。

【問い合わせ先】立命館大学人間科学研究所事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学人文社会リサーチオフィス内

TEL:075-465-8358 / FAX:075-465-8245

本企画は、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築—対人援助のための人間環境研究」プロジェクトの研究成果として広く社会に発信するものです。